

はじめに

～地球温暖化の危機が迫っています～

私たちが暮らす地球の平均気温は、産業革命が始まった 1800 年代後半と比べて約 1℃ 上昇しています。また、静岡県においては、この 100 年で 2.4℃ も平均気温が上がっており、最高気温や真夏日・猛暑日に関する記録も年々更新されています。

さらに、2100 年には、最大で 5.7℃ も地球の平均気温が上昇すると予測されています。

平均気温上昇による袋井市・静岡県における影響

熱波・干ばつ



このままでは静岡県内で
真夏日・熱帯夜が 60 日、
猛暑日が 20 日*増加！

感染症の拡大



デング熱を媒介する
ヒトスジシマカの
生息域が拡大！

豪雨災害



滝のような降雨の発生は
1980 年代と比べて
すでに 1.4 倍に増加！

茶葉の生育不足



一番茶の発芽時期の変化や
収穫量の減少！

みかんの浮き皮

浮き皮や腐敗等
品質低下！



エサ不足による鳥獣被害



食害の発生！



このままでは 1980 年代と比べて
2.1 倍*に増加する可能性も！！

令和 4 年度(2022 年度)
の台風では、
市内でも甚大な被害が
発生しました

※追加的な緩和策を取らず、21 世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約 4℃ 上昇するシナリオ

地球温暖化防止には、温室効果ガス排出量を削減する必要があります！

私たち一人ひとりの取組が重要です！！

- 我が国の温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出量の約 6 割が、私たちの生活の中で消費する製品やサービス*から排出されています。日々の暮らしにおいて、ライフスタイルを見直し、無駄をなくして、環境にやさしい製品やサービスを選ぶことで、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献することができます。
- 一人ひとりができることからゼロカーボンの取組をはじめ、私たちの手で地球温暖化の危機を乗り越えていきましょう！ゼロカーボンライフの実現は、地球を守ることももちろん、健康や快適で楽しい暮らしにもつながります。

※製品、サービスのライフサイクル（製造、流通、使用、廃棄等の各段階）における排出量

（資料：国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ）

～袋井市がゼロカーボンシティの実現を目指す意義～

本市では、ゼロカーボンシティの実現に取り組むことで、地球温暖化対策に資するだけでなく、社会や経済を含む地域課題の解決と次世代へ良質な環境を引き継ぐことを目指します。

～ 豊かな自然や住みよい環境を将来へつなぐ ～

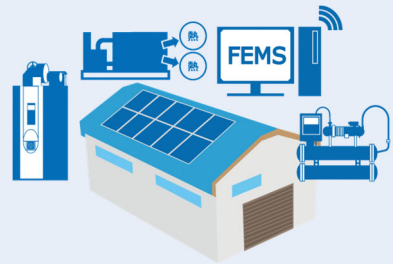
- 地球温暖化とそれに伴う気候変動への対策は喫緊の課題であり、気温の上昇を抑え、気候変動の影響を回避するためには、身近な暮らしや事業活動における取組が必要です。
- 日々のエネルギー利用に対して市民一人ひとりが責任を持つとともに、気候変動への対処を心がけ、災害等に対するレジリエンス*を高めることで、誰もが安心して暮らせる良質な環境を将来へ受け継ぎ、次世代のお手本となる道すじを示していきます。



※レジリエンス…逆境や困難が訪れても、自立的に立ち直ることができる強さ・柔軟性
災害に対しては、被害や損害からしなやかに復興する力

～ 袋井市の“強み”を活かす～

- 本市は、小笠山工業団地や袋井精密工業団地をはじめ輸送用機械等の機械産業を中心とした製造業が盛んであり、このような基幹産業の技術力と交通アクセスの優位性を活かし、ゼロカーボンに積極的に取り組む企業の誘致や育成を通じて、ゼロカーボンシティの実現と産業の振興を目指します。
また、温室メロン等の基幹作物を中心に、ゼロカーボンに取り組むことで、付加価値の向上を目指します。
- さらに、本市は小笠山丘陵地や郊外に広がる農地、浅羽海岸等の豊かな自然を有しています。森林の保全や緑化等、二酸化炭素の吸収源対策を進めることで、生態系の保全や暑熱環境の改善等、暮らしの快適性の向上を図ります。



～ 地域経済循環の活性化を図る ～

- ゼロカーボンに積極的に取り組む企業の集積や地元製品の地産地消を通じて、事業活動や輸送におけるゼロカーボン実現と地域産業振興を両立し、地域経済循環の活性化を目指します。
- また、本市では多額のエネルギー代金が流出している状況です。本市において導入ポテンシャルが高い太陽光発電の拡大や、森林資源を活かした木質バイオマス発電等の再生可能エネルギーの導入推進により、エネルギーの市内循環を図ることで経済性の向上を目指します。



～袋井市「ゼロカーボンシティ」宣言～

本市は令和4年（2022年）2月に、ゼロカーボンシティの実現を目指し、市民、事業者と一丸となり、全力で施策に取り組んでいくことを宣言しました。

ゼロカーボンシティとは、市内における、日常生活・経済活動等による二酸化炭素排出量から、森林等による吸収量を差し引いて、二酸化炭素排出量の合計を実質ゼロにすることで、「ゼロカーボンシティ」宣言をとおして、更なる取組の推進をします。



袋井市「ゼロカーボンシティ」宣言

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界各地で自然災害が頻発、激甚化しています。国内各所においても、猛暑や集中豪雨等の気象災害が頻発し、甚大な被害をもたらしています。

こうした気候変動は、私たちの生命や財産をおびやかすだけでなく、全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす極めて深刻な影響を及ぼしています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が掲げられました。

さらに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書において、この目標を達成するためには「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

袋井市は、本市が望ましい環境像として掲げる「人と自然にやさしい環境をみんなで創り守り育てるまち ふうろい」の実現と、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、市民、事業者の皆様と一丸となって全力で取り組んでいくことを、宣言いたします。

令和4年2月1日

袋井市長 **大場規之**



図 袋井市「ゼロカーボンシティ」宣言とロゴマーク